

スペイン語の *Hacerlo* に関する一考察

Sobre *hacerlo* en español

中村都珠子

Toshuko NAKAMURA

0. はじめに

照応現象の一つであるスペイン語の *hacerlo* が既出あるいは既知の情報のどの部分を受けるとのかについて考察を行う。考察を行う際の問題点として以下の4点が挙げられるが、ここでは主に2)と4)について見ていく。なお本論は1998年5月の日本ロマンス語学会第36回大会(早稲田大学)での口頭発表に加筆したものである。

- 1) *hacerlo* の果たす役割とは何か?
- 2) *hacerlo* の先行詞の範囲はどこからどこまでか?
- 3) どのような種類の動詞を *hacerlo* で受けることができるか?
- 4) *hacerlo* で代用する際の条件とは何か?

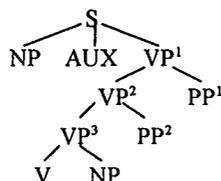
1. 先行研究等の記述

VP proform である英語の *do so* や *do it*, スペイン語の *hacerlo*¹⁾ は、従来 VP 全体を受けると見なされてきた。Brown (1976) では *hacerlo* は VP 全体と置きかわらなければならないとしている。²⁾ しかし Halliday & Hasan (1976) や安井・中村 (1984) 等にあるように動詞の代用 (*do so* など) は常に VP と置きかわっている訳ではないことが指摘されている。スペイン語についても同様のことが言えるであろう。

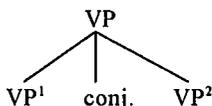
2. 考察 1 (統語的観点から)

ここでは *hacerlo* の先行詞の範囲はどこになるのかについてみていく。一口に先行詞といっても先行詞が現れる環境が単独の VP であったり、二つの VP にまたがっていたりする。また補文をとる VP に先行詞が現れる場合、先行詞の範囲は補文内にとどまるのか、それとも主文にまで達するのか? 以下先行詞の環境を a) VP; b) 複数の VP; c) VP¹ que VP² の三つに分けてそれぞれについて観察を行う。

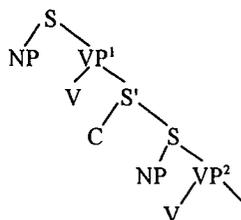
a) VP



b) 複数の VP



c) VP¹ + que + VP²



a)グループでは三つの VP を仮定しているが VP¹ と VP² は optional である。もし二つ以上の VP がある場合一番大きい VP が最大の VP となる。例えば *Juan estudia francés*. においては VP³ が最大の VP になり、*Juan estudia francés en León*. においては VP² が最大となる。*El niño está jugando con sus amigos en el jardín*. では a)の VP 全てが実現されている。この場合、先行詞の候補は三つあることになる。

- (1) Alfonso María no *respondió*. Tampoco **lo hicieron** ni el secretario ni el cromo. (CP:110)
- (2) Todavía no *se había levantado* tío Alfonso María, pero **lo hizo** a poco de oír los golems y barullos, ... (CP:47)
- (3) [...], pero Blanca no *mencionó a Pedro Tercero García* y Clara tampoco se atrevió a **hacerlo**. (CE:182)
- (4) No *me contestes* si no quieres. Pero si **lo haces** prométeme que me dirás la verdad. (LIS:132)
- (5) «No *lames a tu hermano Imbécil*», [...] pero yo no **lo hago** por insultar... (MG:28)
- (6) *Fijé los ojos en el casillero*. Siempre se me acelera la respiración al **hacerlo**. (NV:259)
- (7) -¿Y vas a *hablar*?
-Sí.
-Bueno, iremos a oírte. Probablemente **lo harás** bastante mal. (C:243)
- (8) Yo apenas volví ya tampoco a *abandnarlos*. Pero, cuando **lo hice** ... (LLA:96)

太字は *hacerlo* がある箇所、イタリック体は先行詞を示している（以下すべて筆者による）。(1)から(6)はそれぞれ VP の部分が先行詞となっている。(7)と(8)では先行詞の現れる環境が(準)助動詞+動詞になっているが、先行詞は(準)助動詞を除く VP である。

次に b)グループをみていくが VP¹ と VP² が接続詞で結ばれている場合、*hacerlo* の先行詞となる可能性は三通りある。

- (9) Si (Jaime) *cortaba flores para ella o la ayudara a desmontar del caballo*, **lo hacía** con un desenfado que convertía la galantería en una atención de amigo. (CE:209)
()の主語は筆者による
- (10) Muy pocas veces (Amanda) *le dirigió la palabra* y (Jaime) enrojecía violentamente si ella (=Amanda) **lo hacía**. (CE:236)
- (11) Mi madre creyó llegado el momento de la despedida y *se puso de pie*. La santita Micaela también **lo hizo**. (CP:131)

(9)では *hacerlo* は VP¹ と VP² の両方を受ける。VP¹ と VP² の主語は同じ。(10)では VP¹ と VP² の主語は異なるが *hacerlo* の主語が Amanda なので先行詞は VP¹ であるとわかる。(11)では、VP¹・VP² と *hacerlo* の主語が異なるので主語の一致という観点から先行詞は選べないが、VP¹ は意味的に *hacerlo* で受けることはできない。

c)グループの場合も主文の VP を受ける場合と補文の VP を受ける場合とがある。

- (12) Yo le prometí que *vendría a verlo en cuanto ella muriera*. Le apreté sus manos en señal de que **lo haría**. (PP:7)
- (13) Perdóname que *te hable de tú*; **lo hago** porque... (PP:13)
- (14) -¡Padre, queremos que *nos lo bendiga!*
-¡No!- dijo moviendo negativamente la cabeza. **No lo haré**. (PP:24)
- (15) A Lituma le pareció que el Coronel chasqueaba la lengua, como si fuera a *escupir*. Pero **no lo hizo**. (QM: 159)
- (16) Juan *negó que María viniera*. Y su hermano **lo hizo** también.³⁾

(12)と(13)ではそれぞれ主語はみな同じである。(12)の場合、意味的には主文の動詞 *prometer* まで受けるといえるかもしれない。ただ補文の動詞 *venir* と *hacerlo* の時制が一致（ともに過去未来）していることから補文の VP を受けることがわかる。(13)では主文の動詞が *perdonar* である為 *hacerlo* は補文の VP のみを受けることがわかる。(14)と(15)では補文の VP と *hacerlo* の主語は同じである。しかも *querer* や *parecer* といった動詞を *hacerlo* で受けることはできない。従って *hacerlo* の先行詞は補文であることがわかる。(16)においては *su hermano* がどちらの兄弟を指すかという問題はあるものの、時制が一致していることや意味を考えると先行詞は主文の VP になる。次の(17)は *hacerlo* の現れる環境によって先行詞が主文の VP になったり補文の VP になったりするという例である。

- (17)a. Juan ordenó que María *cantara*. Pero no quería **hacerlo**.
- (17)b. Juan ordenó que María *cantara*. Y **lo hizo** muchas veces.
- (17)c. Juan ordenó que María *cantara*. Pero José no quiso **hacerlo**.
- (17)d. Juan ordenó que María *cantara*. Y Pedro **lo hizo** también.

(17)の場合は動詞の意味から先行詞をしぼることはできない。*hacerlo* は *ordenar* も *cantar* も受けることができるからだ。しかし(17)a.の先行詞は *cantar* となる。なぜなら *hacerlo* が *querer* と現れており、これは「まだ実行されていない行為」を意味するからだ。ここでは *ordenar* の行為はすでに実行されており先行詞とはなれない。(17)b.には *muchas veces* が現れており、この副詞は *ordenar* も *cantar* も修飾できる。しかし時制の一致を考えると *ordenar* が先行詞となる。(17)c.と(17)d.の *hacerlo* の主語は第三者である。(17)c.の後の文は「ホセはマリアがそうすることを望まなかった」という意味になるので、*hacerlo* の先行詞は補文となる。(17)d.も時制の一致から *ordenar* が *hacerlo* の先行詞となる。

今までみてきたことから *hacerlo* で受けることのできる範囲は VP 内に留まることが確認できた。先行詞の範囲が VP を越えて助動詞まで達するということはない。だからといって先行詞の範囲がきっかり VP であることが証明できた訳ではない。詳しくは3節で見るのだが、次の例は一見 *hacerlo* が動詞だけを受けているように見える。

(18) El pronombre sustituye al nombre pero no lo hace con el verbo.

hacerlo が con el verbo と共に現れているので hacerlo の先行詞は動詞 *sustituir* だけとなっている。しかしこの場合、動詞が構成素をなしているので *sustituir* だけを hacerlo で受けることができるのだ。

3. 考察 2 (「対比」の観点から)

動詞代用の果たす役割として文やテキスト間の結びつきを保証するということが挙げられる。また言語の余剰性を削減する働きや動詞の代用を使用することで逆に強調を表すという働きもある。しかし動詞代用の主要な機能は対比を表すことであろう。(Halliday & Hasan : 1976, 村田 : 1982, 安井・中村 : 1984) 安井・中村は対比要素という用語を導入している。⁴⁾

(19)a. John *flies planes* carefully, but I **do so** with reckless abandon. (安井・中村 : 133-134)

(19)b. John *flies planes carefully*, but I don't **do so**. (id.)

(19)a.の先行詞は *flies planes* だが、(19)b.の先行詞は *flies planes carefully* である。(19)a.では副詞が対比されており、ここでは *with reckless abandon* が対比要素となり *carefully* の受け入れを拒否する。対比要素は動詞代用と共起する。

英語では補語、厳密下位範疇化⁵⁾の要素は対比要素にならない。スペイン語に関しても英語と同様のことが言えよう。それ以外のほとんどの要素(主語、目的語、副詞、時制、法、極性など)は対比要素となり得る。対比要素になり得るものをプラス、対比要素になれないものをマイナスで表した。下の表にあるように厳密下位範疇化をのぞけばどの要素も対比要素になれる。通常目的語は動詞と一緒に *hacerlo* に受け継がれるので基本的には対比要素にはなれない。しかし目的語が対比要素となって現れている場合があるので、ここでは両方の値を持っていると考える。

i) Subject	+
ii) Subcategorization	-
iii) DO/IO	-(+)
iv) Adverb	+
v) Tense	+
vi) Polarity	+
vii) Modality	+

3.1 対比要素になるもの／ならないもの

(20) ...ningún vecino se hubiera asomado a mirar. Supuso que, tal como muchas veces **lo había hecho** ella misma,... (CE:422)

(21) A.: [...] Usted también les ha cantado admirablemente a esos hombres que ya

pertenecen a la mitología de la ciudad.

B.: Yo lo he hecho humildemente,... (CB: 48)

(22) Mi padre debió pensar que la cosa no iba con él. [...] Desenroscó el puño del bastón, sacó un vasito de plata de dentro del puño y se valió de un pañuelo para limpiarlo meticulosamente. Lo hacía incluso con un celo sacramental. (CP:211)

(23) Cuando veía a alguno que accionaba mucho, pensaba: «¡Cuidado que lo hace mal!»
—Y añadía— (C:525)

(24) Por aquella dejó de celebrar en la capilla de La Omañona, donde lo hacía con frecuencia,... (FE: 132)

(25) Nadie puede entrar en el subconsciente de otra persona sin previa autorización. Ella tenía que permitir que lo hiciera si de veras deseaba entrar a trabajar en CUVA. (LA: 49)

(20)は主語と法が対比要素になっている。(21)と(22)では副詞(句)が対比要素となって *hacerlo* と共起している。様態を表す副詞が対比要素となって出てくる例は非常に多かった。(23)では量を表す副詞 *mucho* が質を表す副詞 *mal* によって受け入れを拒否されている。(24)は場所を表す関係節 *donde* が *hacerlo* と共起しているため *hacerlo* が受けるのは *celebrar* の所だけであり *en la capilla de La Omañona* は受け入れを拒否される。(25)は *permitir* の意味が対比要素となり前置詞句 *sin previa autorización* が受け入れを拒否されている。

(26) “Sabemos que tenemos que enfrentar verdades duras y dar pasos fuertes. Pero no lo hemos hecho.” [las palabras pronunciadas por Clinton] (NW:38)

(26)は否定の *no* が対比要素となっている。否定の *no* が対比要素の場合何らかの要素の受け入れを拒否するというものではない。

対比要素となれないものには動詞に下位範疇されたものが挙げられる。

(27) * Juan vive en Vigo y sus padres lo hacen en Barcelona.

(28) * Juan tuvo que poner el libro en la estanteria pero lo hizo en la mesa.

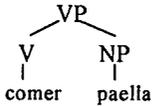
Halliday & Hasan の説明によると *live* は所格 (locative) を必要とする動詞であるため *live* が代用される場合は所格も一緒に引き継がなければならない。ただ(27)は *hacerlo* が意味的に *vivir* を受けることができないという理由で非文になっているとも考えられる。⁶⁾ (28)の *poner* についても所格を必要とする動詞なので *hacerlo* は *poner* のみを受けることはできない。

3.2 目的語

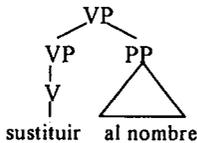
まず目的語が対比要素になれない例として

- (29) * Juan comió paella y Pedro **lo hizo** espaguetis.
 (30) * Juan abrió la puerta y Pedro **lo hizo** la ventana.

(29)と(30)の構造は



となり、V は構成素を成していない。そのため V だけを **hacerlo** で受けることはできない。よって (29)と(30)は非文になる。一方、2節の終わりでみた例では、目的語が前置詞 **a** を伴っておりその目的語を前置詞句と捉えれば、その構造は



となる。この場合 V は構成素を成しているため **hacerlo** は V だけを受けることができる。次の例では先行詞の目的語も対比要素の目的語も **a** でマークされているが非文となっている。

- (31)a. * Juana mató a su hermana con un cuchillo y Petra **lo hizo** a su novio.⁷⁾
 (31)b. Juana mató a su hermana con un cuchillo y Petra también **lo hizo**.
 (31)c. Juana mató a su hermana con un cuchillo y Petra **lo hizo** con una pistola.

(31)a.は **mató con un cuchillo** の部分を受けるつもりが非文となっている。一方(31)b.と(31)c.はそれぞれ **hacerlo** が VP 全体と **mató a su hermana** を受けている。

次の例では先行詞の目的語は **a** でマークされており **hacerlo** と共起している目的語は **con** でマークされている。

- (32) El pronombre sustituye al nombre pero no **lo hace** con el verbo. (=18)
 (33) Este humorista imitaba a Presley hábilmente pero **lo hacía** mal con Michael Jackson.
 (34) Eso es lo que era verdaderamente. Y a tu madre la enredó como **lo hacía** con muchas.
 (PP:18)
 (35) ..., que en lugar de amamantar a un recién nacido, **lo hiciera** con un medio muerto.
 (CP:180)
 (36) Supe que algunos le pidieron que los ayudara a morir y, por lo menos en un caso, creo que **lo hizo**. (CE:446)
 (37) Esteban tuvo que entrar a trabajar en una Notaría porque... Lo había cuidado y servido

como ahora lo hacía con la madre y ... (CE:53)
(el sujeto de había cuidado y servido es la hermana de Esteban)

(32)では *sustituir* を(33)では *imitar* のみを受けている。(34)では *con muchas* が対比要素となり *a tu madre* (あるいはその前の *la*) の受け入れを拒否している。(35)においても *hacerlo* は動詞だけを受けていると思われる。(36)の場合、安楽死を求めているという場面で「何人かの人が死なせてくれと頼んだ。私の知る限りでは一度だけその願いをきいてやった。」という意味になるのだが、ここでは *los* (*algunos* を指す) と *por lo menos un caso* が対比されている。*hacerlo* が指すところは *ayudara a morir* の部分である。(37)の *había cuidado y servido* の目的語も代名詞 *lo* になっており (*Esteban* を指す) *con la madre* と対比されている。この場合も *hacerlo* は動詞の部分だけを受けている。ただこれらすべての場合、動詞が構成素をなしているために *hacerlo* は動詞の部分だけを受けることができる。

4. まとめと今後の課題

Hacerlo と先行詞の現れている環境を比べて初めて *hacerlo* の先行詞が何処から何処までなのかが決まる。先行詞の範囲は VP を超えることはないが、目的語が対比要素となった時 V だけを受けることはある。目的語が対比要素になるには先行詞の目的語が前置詞 *a* でマークされている必要がある。それは目的語が前置詞句として独立しており、動詞が単独で構成素を成している場合である。そしてその時の対比要素は *con* でマークされる。

しかし先行詞の目的語が *a* でマークされているからといって常に *hacerlo* で代用できるとは限らない。

(38)a. *La niña besó a su madre pero no lo hizo a su hermano.

(38)b. ?La niña besó a su madre en la cara y lo hizo con su hermano en la frente.

(38)c. La niña besó a su madre y lo hizo muchas veces.

(38)a. は非文だが (主語が同じなので対比にもなっていない) (38)b. は場所を表す前置詞句がついているぶん容認度があがる。(38)c. は *una vez* (実際現れてはいない) と *muchas veces* が対比されており文法的な文となっている。*Hacerlo* が対比を表さない、つまり単なる繰り返しであれば省略の方が好ましいであろう。

(39)a. *La madre abrazó a su hijo pero no lo hizo a su esposo.

(39)b. La madre abrazó a su hijo pero no a su esposo.

また動詞が構成素をなす時、対比要素は *con* でマークされると述べたが、対比要素が *a* でマークされる方が好ましい場合もある。⁸⁾ 対比要素が *a* でマークされるか *con* でマークされるかは動詞の種類によるものと思われるが、仮に対比要素が *con* でマー

クされているならばその先行詞の目的語は *argument* というよりは *adjunct* に近いステイタスをもっているのではないだろうか。

どういう時に代用表現が好まれどういう時に省略が起こるのか。しかも代用のなかでもいくつかのヴァリエーションがあり、それらはどのように使い分けられているのか。今後の課題として *hacer*, *hacer lo mismo* といった他の代用表現や省略との関連もみていく必要がある。

註

- 1) スペイン語の動詞の代用表現は *hacerlo* だけでなく *hacer* や *hacer lo mismo* といった表現もある。Verbal substitution を理解するにはこれらの表現の共通点・相違点を見る必要があるが、この研究では *hacerlo* のみを取り上げた。
- 2) Brown (1976) はここでの研究とは直接関係ない。しかし *hacerlo* に関するコメントが foot note (p.243:19) にあったためここで取り上げた。
- 3) 例文の出典を記していないものは筆者が作文しネイティブチェックを受けたものである。以下同じ。
- 4) Halliday & Hasan (1976) に基づいている。
- 5) Halliday & Hasan (1976) では *strict tie* という用語が使用されている。
- 6) 同じ「住む」という意味でも *morar* になると容認度が高くなる。
- 7) 例文(31)はすべて Baéz San José (p.114)。(31)a. から *con un cuchillo* を取っても非文になる。^{*} *Juana mató a su hermana y Petra lo hizo a su novio.* この場合次のように省略しなければならない。*Juana mató a su hermana y Petra a su novio.* (これらの例文は筆者が作文してネイティブチェックを受けたもの)
- 8) 以下の例文は筆者が作文してネイティブチェックを受けたものであるが、人によって判断にばらつきがありはっきりと言うことはできないが、筆者が受けた印象としては a でマークされている例文の方がよさそうだ。
 - a. [?] *Tenía que comunicar la mala noticia al jefe inmediatamente pero lo hizo con sus compañeros.*
 - b. [?] *Tenía que comunicar la mala noticia al jefe inmediatamente pero lo hizo a sus compañeros.*

【参考文献】

- Alarcos Llorach, E. (1978) :Estudios de gramática funcional del español. 3rd. ed. Madrid: Gredos.
- (1994) : Gramática de la lengua española. Madrid: Editorial Espasa Calpe.
- Álvarez Martínez, M. Á. (1986) : El artículo como entidad de funcional en español de hoy. Madrid: Gredos.
- Báez San José, V. (1990) : “Diccionario informatizado de construcciones oracionales y el proyecto «esquemas sintáctico-semánticos del español».” *Lingüística Española Actual* 12-2: 103-136.
- Bosque, I. (1990) : Las categorías gramaticales. Madrid: Editorial Sintesis.
- Brown, G. , Yule, G. (1983) : *Discourse Analysis*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Brown, M. C. (1976) : “A transformational analysis of the spanish neuter and related structures.” Diss. U of Wisconsin Madison.
- van Dijk, Teun. A. (1980) : *Texto y contexto*. Madrid: Cátedra. (versión español)
- Gili Gaya, S. (1965) : *Curso superior de sintaxis española*. Madrid: Gredos.
- Halliday, M.A.K. , Hasan, R. (1976) : *Cohesion in English*. London: Longman.
- Hankamer, J. , Sag, I. (1976) “Deep and surface anaphora.” *Linguistic Inquiry* 7: 391-428.
- 今西典子・浅野一郎 (1990) : 照応と削除 (新英文法選書 11) 東京 大修館
- McCawley, J. D. (1988) : *The syntactic phenomena of English*. 2 vols. Chicago: The University of Chicago Vol. 1.
- Moreno Cabrera, J. C. (1991) : *Curso Universitario de Lingüística General. Tomo I : Teoría de la gramática y sintaxis general*. Madrid: Editorial Sintesis.
- 村田勇三郎 (1982) : 機能英文法 東京 大修館
- Pensado, C. (Ed.) (1995) : *El Complemento Directo Preposicional*. Madrid: Visor Libros.
- Real Academia Española (1973) : *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*. Madrid: Espasa-Calpe.
- Rojó, G. (1990) : “Sobre los Complementos Adverbiales.” *Collecció Homenatges Professor Francisco Marsá. Jornadas de Filología* : 153-171.
- 山田善郎(監修) (1995) : 中級スペイン語文法 東京 白水社
- 山梨正明 (1992) : 推論と照応 東京 くろしお出版
- 安井稔・中村順良 (1984) : 代用表現 (現代の英文法 10) 東京 研究社

【引用作品】

- R: Leopoldo Alas (1966) : *La Regenta*, Madrid, Alianza.
- CE: Isabel Allende (1994) : *Las casas de los espíritus*, Barcelona, Plaza & Janés.
- AY: Francisco Ayala (1991) : *El jardín de las delicias*, Madrid, Espasa-Calpe.

C: Pio Baroja (1967) : *Las ciudades*, Madrid, Alianza.

CP: José Manuel Caballero Bondad (1988) : *En la casa del padre*, Barcelona, Plaza & Janés.

CB: Roberto Alifano (1986) : *Conversaciones con Borges*, Madrid, Debate.

FE: Luiz Mateo Díez (1986) : *La fuente de la edad*, Madrid, Alfaguara.

CC: José Donoso (1978) : *Casa de campo*, Barcelona, Seix Barrel.

LA: Laura Esquivel (1995) : *La ley del amor*, México, D.F., Editorial Grijalbo.

FL: Carlos Fuentes (1980) : *Una familia lejana*, Barcelona, Seix Barrel.

NS: Gabriel García Márquez (1996) : *Noticia de un secuestro*, México, D.F., Diana.

GF: *Grandes firmas* (1987) Madrid, Autor-Editor.

INT: Ejemplos a través del internet (1997) Spanish literature.

LLA: Julio Lamazares (1989) : *La lluvia amarilla*, Barcelona, Seix Barrel.

MG: Elvira Lindo (1994) : *Manolito Gafotas*, Madrid, Alfaguara.

RF: Carmen Martín Gaité (1986) : *Dos relatos fantásticos*, Barcelona, Lumen.

NV: Carmen Martín Gaité (1992) : *Nubosidad variable*, Barcelona, Anagrama.

T: Rosa Montero (1990) : *Temblor*, Barcelona, Seix Barrel.

LIS: Antonio Muñoz Molina (1987) : *El invierno en Lisboa*, Barcelona, Seix Barrel.

Q: Emilia Pardo Bazán (1991) : *La Quimera*, Madrid, Gatedra.

PP: Juan Rulfo (1989) : *Pedro Páramo*, Barcelona, Planeta.

LL: Juan Rulfo (1989) : *El llano en llamas*, Barcelona, Planeta.

FA: Francisco Umbral (1989) : *El fulgor de África*, Barcelona, Seix Barrel.

QM: Mario Vargas Llosa (1986) : *¿Quién mató a Palomino Moreno?*, Barcelona, Seix Barrel.

NW: News Week en español, 12 de agosto de 1998.